

岩崎 洋(編)

脊髄損傷理学療法マニュアル

中屋久長

高知リハビリテーション学院

近年、理学療法に関する図書が多く出版されている。ごく最近までは、リハビリテーション医療関係図書の一部に理学療法領域が掲載されることが多かった。理学療法士(PT)が誕生して40年、その歴史の中で協会の学術活動や個々のPTが営々として積み上げてきた結果と、PT養成が大学や多くの専門学校教育で行われるようになりPTの学術的なレベルアップがなされてきたこと、さらに養成校急増によるPT供給が必要を生み、出版社にとって市場に耐えうる存在となってきたことが理学療法専門書が出版されてきた要因であろう。

この度PTが遭遇する障害の1つである「脊髄損傷(脊損)」の理学療法について、臨床現場で活躍する「脊損研究会」の中堅PTの方々が臨床実践を通じて幅広い視点から解説、網羅した実践本が発刊されたことは、関係者にとって待望のことと思われる。

本書のコンセプトは、「今、臨床で行われている理

学療法を伝える」「執筆者は脊損を専門としている病院・センターのPT」「特定地域、特定PTでなく全国的に展開する」「現在の脊損アプローチの流れ、教育・最新の知見」「増加傾向にある不全麻痺に対する理学療法」「読んですぐ何を書いているのか理解できる記述、主語述語を明確にし3行以上は書かない」「臨床上のコツを分かりやすく図示し、指導のポイントを入れる」「引用文献は最小限に止める」等々が特徴で、それを徹底した内容となっている。特に引用文献は最小限とし実践中心であることに本書の特徴と価値がある。

本書は第1章に脊損の「病態」、第2章は本論の「理学療法」が全文の65%を占め、正に表題そのものである。第3章は、今後の理学療法展開に役立つ「最新の知見」を広い範囲で解説している。第4章は後進の指導を含めた「教育」、第5章は社会生活上脊損者にとって最も必要な制度・法律と日常生活・社会統合のヒントとなる症例報告が盛り込まれている。編者談では「荒削りな本」とあるが、次々と数多く出版される図書に一石を投じる書として評価したい。

●B5判 400頁

定価：6,825円(本体6,500円+税5%)

2006年 文光堂・刊